

親善大使レポート

期間：令和4年7月～令和5年6月
滞在先：オーストラリア（シドニー）
氏名：小川 智葉

私は、2022年の7月から2023年の6月にかけて、およそ1年間、オーストラリアのシドニー工科大学（UTS）にて交換留学を行いました。今回の留学は、人生で初めての海外滞在、共同生活の経験でした。そのため、留学開始前は不安が大変大きかったです。しかし、結果としてはかけがえのない一生もの友達、経験を得ることが出来ました。

滞在中には、日本食や文化について友達と多く話す機会が多くありましたが、その中でも特に、埼玉県初の「クレヨンしん」と「草加せんべい」について紹介しました。「クレヨンしんちゃん」は特にスペイン人に人気だったため、スペイン人のルームメイトにシールをプレゼントしました。さらに、「草加せんべい」は、私が働いていたアルバイト先の方々と、現地の合唱でお世話になった方々、ルームメイトにプレゼントしました。今まで食べたスナックの中で一番おいしかったという声も聞かれ、大変好評でした。

留学先のUTSでは、健康学部の授業を3つ受講しました。右の写真が、健康学部専用の棟です。この新しい棟は、身体運動の計測に必要な機械を多く所有しており、実践的な環境で学ぶことが出来ました。ここで学んだことは、現在日本の大学で取り組んでいる、卒業論文にも生きています。授業の中で貸されたグループ課題にも積極的に取り組みました。必ずしも上手く進んだものばかりではありませんでしたが、異文化を持った人と共同作業をする上でぶつかる壁、それを乗り越えるための策について深く考える良い機会となりました。



シドニー滞在中には、学生寮のジェンダーミックスの6人部屋に滞在しました。ルームメイトは世界各地からきた留学生、または現地の学生でした。共同生活をしたことがなかった私にとっては大変大きな変化でした。ですが、そのルームメイトとは今でも繋がっており、一生ものの友達になったと実感しています。生活を共にすることで、発生する問題等ももちろんありますが、その度に新たな学びが生れ、今までの自分にはなかった価値観が生まれました。

シドニーでの生活については、セントラル駅から徒歩10分ほどのところに滞在していたこともあり、買い物や交通アクセス等に困ったことはありませんでした。日本に帰国した今、私が一番恋しいと感じているのは、シドニーの美しい自然と暮らしやすい気候です。これらの要因が、穏やかでオープンマインドなオーストラリアの国民性に繋がっているのかもしれない。さらに、マルチカルチャーなので、他の国の人と一緒に勉強や仕事をするのが当たり前です。その点、留学生にはとてもやさしい国だと感じました。



シドニー湾の夜景

留学全体を通して、自分の持つ常識が常識として通用しない場面に多く遭遇しました。留学初期の頃には、それらが重なり、うちにこもりそうになったこともありました。しかし、そのたびに自分の持っていた常識の根拠を考え、それを直したり、新しい側面から見てみたりすることで、それを理解し柔軟に対応できるようになったと思います。1年間住み慣れた土地を離れて暮らしたことは、今振り返っても大変大きな冒険でした。しかし、そこで得られた経験は今後必要とされる、問題解決能力や柔軟性、異文化理解に直結していました。ここで得られた経験を将来的に社会に還元できるよう、今後も新しい目標に向かって努力を続けていこうと思います。改めまして、留学を支援してくださった多くの方々に、この場をお借りして感謝を申し上げます。



1番心に残っているハイキングコース